



TOHOKU EPO通信

[エポ]
東北環境パートナーシップオフィス



vol. 22



一般社団法人あきた地球環境会議（CEEА）が主催する
「開発途上国におけるフロン対策普及啓活動 in マレーシア」にEPO東北スタッフが同行

Contents ❖

- ❖ 特集「青森県大間町 ゲリラ流まちおこし」
- ❖ ECO&復興支援グッズ
- ❖ 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

青森県大間町 ゲリラ流まちおこし



おもしろがる心を持って「マグロを生かしマグロを超える」まちづくりを仕掛ける「あおぞら組」。2014年にはまちおこしゲリラ活動がグッドデザイン賞を受賞しました。本州最北端という地理的なハンディを突き抜け、発信を見て共感した人がファンになり、地域づくり、コミュニティづくりへと活動が広がっています。

地域を生かしたコミュニティ・ビジネスのヒントを探るため、お話を伺いました。

取材
協力

島 康子氏

Yプロジェクト株式会社代表取締役、あおぞら組直前組長・現ほしぞら組員

まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」の立ち上げ

高校進学で大間を離れてから17年ぶりにUターンしてきてすぐ、町の人々に「こっだらどこさ、よぐ帰ってきたな（こんなところによく帰ってきたな）」と言われた。都会から帰ってきてくれて嬉しい反面、すぐ大間が嫌になってしまうのではないかと不安を感じていたのだろう。その頃は、昔は青年団が取り組んでいた活動もどんどん廃れてしまい、自分達でまちづくりをしようと立ち上がるような人もいなかった。私自身もかつては「都会の方が素晴らしい」と思い込んでいたように、田舎に対して劣等感を抱いているようなムードが町全体に漂っている印象だった。若者はあまりまちづくりに関心もなく、都心へ出ていく人の方が多かったと思う。



私がまちづくりの活動を始めたのは、Uターンしてきて間もない頃のことだ。自分達からおもしろそうなことに飛び込んで行こうと、2000年1月に仲間6人でまちおこしゲリラ集団「あおぞら組」を立ち上げた。

青森県大間町と東京・筑地を舞台にしたNHKの連続テレビ小説「私の青空」の撮影が行われることがきっかけとなった。せっかく大間がドラマの舞台に選ばれたのだから、何かしたい。最初に取り組んだのは、ロケ地となった大間だからこそ知り得る裏話の発信だ。ウェブサイトを立ち上げ、エキストラとして出演している大間の人々を紹介し、町をPRした。さらにドラマキャストの地元そっくりさんを集めた「私の青空」パロディ版のポスター作りを行った。

その年の8月、大漁旗を振って「よぐ来たのー!」と、大間・函館間を走るフェリーのお客さんを出迎える活動をした。この「旗振りウェルカム」が私達の活動の原点になっている。ところが迎えている側は最初「恥ずかしいし、やりだぐね!」と乗り気ではなかった。恥ずかしさを1回だけ堪えて、「とてもじゃないけど嫌だ」と思ったらやめようとしてトライした。するとお客さん皆が笑顔で手を振って、とても喜んでくれた。お客さん達の喜びがこちらに跳ね返ってくる経験に、旗振りウェルカムの手応えを感じ、現在までこの活動は続いている。

「やらされ感」ではなく、自分達自身がおもしろがってやれること、「それおもしろいね」と言ってすぐ実行に移せるようなことに積極的に取り組んだ。小さなことでも達成できたら皆でその達成感を味わい、そしてまた次のことに取り組む。そうして小さな達成を積み重ねていくことが大事だと思う。

町を威張るTシャツ

2004年に開催されたアテネオリンピックに、大間出身の柔道の選手が出場し、銀メダルを獲得した。この時大間から駆け付けけた応援団15人が、おそろいで着ていたのが「マグロー筋」と書いてあるTシャツだった。当然、会場でものすごく目立ち、柔道の応援なのになぜマグロが描かれたTシャツを着ているのかと、ワイドショーなどでも取り上げられた。



漁師町である自分達の故郷・大間を誇りに思い、生まれ育った場所をもっと威張ってほしい。この T シャツは、故郷を威張りやすくするツールがあればという考えから、あおぞら組が 2002 年にゲリラ的に作成・販売していた物だ。テレビで取り上げられたことがきっかけとなり、意図せずして全国に知れ渡ると、とんでもない注文がやってきた。100 枚、200 枚のロットで作成販売をしていた小さな取組に対して、全国各地から「あの T シャツはどこで買えますか」と電話がひっきりなしにかかってくる。通信販売をできるような体制でもなく、大間に買いに来られる方を対象に限定販売を行ったが、行列ができるほど全国から人が殺到し、大変な騒ぎになった。



「マグロー筋 T シャツ」が図らずも大ヒット商品となったことから収益事業が始まった。マグロは世界の海を泳ぐ魚だ。自分の子どもや孫が世界に飛び立つ人に育ててほしいのだったら、鯉ではなくマグロを泳がせまじょうと「マグロのぼり」を作った。古い大漁旗を再生させた「大漁だべさグッツ」、 「マグロー筋手ぬぐい」や「エコだべさバッグ」など、さまざまな商品を次から次へと送り出してきた。収益事業に取り組むに当たっては、しっかり会社組織へ改編しようと、2013 年 4 月から Y プロジェクト株式会社を立ち上げた。「あおぞら組」はあくまでも非営利のボランティアで、町の PR になるような発信に取り組んでいる。2015 年 5 月からは地域限定の旅行業「地旅ツアー」も始めた。訪れる人も、迎える人も、腹から笑って楽しめる、そんな旅作りを目指している。

活動を振り返って

活動を始めて 10 年が経った 2010 年、大間高校の生徒達が「ゲリラ活動の仲間に入れてください」と活動に入って来てくれた。この時は感無量だった。大間高校には「非公式ゲリラ部」が発足し、1 年限りかと思われたこの活動は次の代、次の代へと続いていて、年々人数も多くなっている。若い子達がちゃんと背中を見てくれているのかなと感じている。

私もかつては「田舎く都会」の物差しで計り、「都会の方が素晴らしい」と思い込んでいた。今は自分の生まれた故郷でもっと踏ん張って、ギラギラと輝いて生きていけると思っている。その生き様を発信することも大事だと思うので、それが若い世代に伝わるのはとても嬉しい。これまでずっと自分のペースで泳いできたけれど、自分が泳げなくなった時、若い子達が自分達の取り組みたいことを見つけて新しい場を作っていくのかもしれない。そうやって次の世代につなげていきたいと思っている。

青森県

大間町



活動地域と地域資源

コテコテの漁師町

本州最北端に位置する大間は、マグロー一本釣り漁が自慢のコテコテの漁師町。漁師町というのはどこからテン的でオープンな空気があり、漁師は、船に乗ればどこにでも行けるからなのか、自由でたくましい雰囲気を持っている。大間町民は、漁師の町であることを誇りに思いながら生きていると思う。



ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ
(マイバッグなど)

1 tam tam dot×てぬぐい

仙台市、中山にある多夢多夢舎。被災地で障がいのある方々の仕事の復興を支援しています。メンバーひとりひとりの魅力が、絵や音楽、パフォーマンス…、さまざまな形になって、世の中に飛び出しています。リズムを生かしたデザインブランド[tam tam dot]もその一つ。このてぬぐいは、tam tam dotの楽しいデザインを生かし、仙台の老舗「武田染工場」とのコラボレーションによって生まれました。伝統の注染染めで、柔らかな風合いの生地仕上がっています。

問い合わせ先：NPO法人 多夢多夢舎中山工房

宮城県仙台市青葉区中山2丁目18-5

TEL：022-277-0081 FAX：022-277-8809 Email：info@tamutamu.jp 価格 1,000円～1,200円

<http://tamutamu.jp>



2 カエルのじょう君

原発事故の影響で避難し、川内村民は皆バラバラになりました。

帰村宣言し、いち早く帰ってきた障がい者の人たちが安らげる場所として「サロンどじょう」ができました。私たちが住んでいる川内村に天然記念物に指定されているモリアオガエルがいます。川内村はカエルの村として知られています。サロンを利用しているお友達が一目一目織り込んで作ったさをり織りのマスコット「じょう君」を皆様方にかわいがっていただければ嬉しく思います。

問い合わせ先：サロン「どじょう」

福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15

TEL/FAX：0240-38-2900 価格 500円



3 “気仙沼のごちそうギフト” 4種詰め合せ

FM38は、3.11での漁具の流出やトラウマが原因で漁師を辞める方が急増したことを背景に、地元の漁師の存続と漁業文化の継続を願い結成されました。売先に苦慮している漁師からの魚の買取・販売、また、地元素材を利用した加工品の企画・製造などを通じ、漁業を守り地域の活性化を目指すことを目的としています。一番人気の、ブラックペッパーが効いた大人の『さんま一夜干し』の他、『メカジキ大トロの粕漬け』『モーカの粕漬け』、前浜で獲れた天然真穴子を使用した『あなごめしの素』が入った本商品は、気仙沼ならではのご馳走をご堪能頂けるセットとなっています。

問い合わせ先：一般社団法人 Fish Market 38

宮城県気仙沼市唐桑町小田92-1

TEL：0226-31-3855 FAX：0226-31-3844 価格 4,400円(税抜)

www.fm38.jp



4 EAST LOOP ハートブローチ

東日本大震災で被災された方々によって手づくりされたニット製のブローチ。被災地と世界中の人々の“想い”が重なるイメージで「ハート」を二つ重ねたデザインです。岩手県の陸前高田市・釜石市・大槌町などで被災者の方々が制作しており、商品の台紙には、「made in 陸前高田 by ジャスミン」など作り手さんのニックネームと生産地を示す地図を記載しています。商品代金の50%が生産者グループに届きます。

問い合わせ先：合同会社 東北クロッシェ村

〒028-0515 岩手県遠野市東館町6-16

TEL：0198-68-3770 FAX：0198-62-0602 Email：info@tohoku-crochet.com 価格 800円(税抜)

<http://tohoku-crochet.com/index.php>



5 形決まるキャラメルポーチ ハリネズミ柄

震災直後「おばあちゃんの生きがい作りのためにミシンがあったらなあ…」その一言を聞いて始まったミシンプロジェクト・千寿の会です。現在、岩手県大船渡市の2カ所の仮設住宅集会所で、おばあちゃんたちが手作りの布小物を作っています。このポーチを使ってくれる人たちに<寿=よるこび>が届きますように、の気持ちを込めて縫っています。

問い合わせ先：千寿の会(ちじゅのかい)

TEL：090-5397-8361 Email：chijumishin@gmail.com 価格 1,100円

<http://chijunokai.cart.fc2.com/> (オンラインショップ)



ひろさき環境パートナーシップ21 (HEP21) は今年14年目です。

「市民の欲しいものを市民の手で。あずましい環境を目指して。」を合言葉に、市長と市民が環境協定を結んだ日本で最初の例です。

弘前市では平成13年3月に市民参画のもと「弘前市環境基本計画(ひろさきアジェンダ21)」を策定しました。「自分たちが創った計画は、自分たちで推進していこう」と、市民・事業者主体の自立的な任意組織としてHEP21を設立しました。市長と環境協定を結び、毎年更新して現在に至っています。この協定は日本で最初のものであったため、環境省の「平成17年度環境白書」に自治体との協働の例としてパートナーシップの項目の1ページに掲載されました。主な活動は以下の6つですが、一番活発なのがだんぶり池と子どもエコクラブです。

1. 生活環境グループ (消費生活等)
2. 農業環境グループ (自然循環型農業等)

3. 快適・文化環境グループ (歴史的文化遺産、都市計画等)
4. 自然環境グループ (だんぶり(トンボ)池、等)
5. 地球環境グループ (地球温暖化、環境学習等)
6. 子どもエコクラブ (身近な水の伝導度とpH値の測定、エコ料理、生き物調査等)

14年間の活動報告は右上のURLを参照してください。主なトピックスは、今年子どもエコクラブがエコクラブ壁新聞で文部科学大臣賞を受賞したこと。平成19年にはHEP21弘前だんぶり池の活動が農林水産省から田園自然再生活動コンクールの「パートナーシップ賞」を受賞したことです。弘前市のゴミ分別に

東北6県 青森 EPOトピックス

ひろさき環境パートナーシップ21 (略称: HEP21)

- 〒036-8314 青森県弘前市大字町田字筒井6-2 (弘前市役所 環境管理課 気付)
- TEL: 0172-36-0677
- FAX: 0172-32-1957
- HP: <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/partner21/partner21.html>

も助言しました。市との協定は市長が代わっても続けられ、現市長には私たちの意見もマニフェストに取り入れてもらいました。協定を結ぶということは大事なことだと実感しています。



「馬と共に暮らす古民家の再生」と「被災地の子どもケア」

地域に根つきながら馬とともに暮らしていた築90年の古民家「南部曲り家」を再生させ、被災地の子ども達のためのホースセラピーや馬といっしょに暮らす宿泊体験などを展開していきます。

■馬といっしょに暮らすエコツーリズム

拠点の古民家は、数十年前まで実際に馬と共に暮らしていました。馬が家族の一員となる古民家ステイを中心としたエコツーリズムを展開。目が覚めたら、人以外の息遣いが聞こえる。馬と共存する暮らしの中には、私たちが心豊かに生きていくための手がかりが詰まっています。

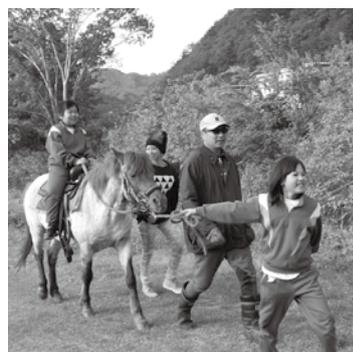
■馬とのふれあいによる心と体のケア

馬という命に触れる体験を通して「自分は必要な存在」という自己有用感を高め、馬とコミュニケーションを図る中から主体性が引き出されます。馬とのふれあいは、震災の負担を今も抱える被災地の子どものみならず、都市部で

ストレスを抱える大人にとっても非常に有用です。

■馬が地域を再生し、過去と未来をつなぐ

この地には、南部曲り家という建築様式で馬と人が同じ屋根の下で暮らす文化がありました。馬との暮らしを再生する中で、地域固有の資源をつなぎあわせながら、誇りを持って取り組めるコミュニティビジネスへ発展させ、持続可能な地域づくりの一助を担います。



東北6県 岩手 EPOトピックス

一般社団法人 三陸駒舎

- 〒026-0411 岩手県釜石市橋野町9-44-7
- TEL: 090-7070-7378 (黍原・きびはら)
- Email: kama.koma55@gmail.com
- HP: <http://kamakoma.org>
- facebook: <https://www.facebook.com/kamakoma55>



おおさきエネルギーカウンシル

第2回 アースデイみやぎ大崎2016 は6月5日(日)に開催!!

「OSAKINI~LOCALISM~」再生可能エネルギーの活用とその普及啓発を通じて一歩先行く田舎暮らし、大崎らしさを楽しみながら発信!

自然豊かな大崎地域は再生可能エネルギーとして利用可能な自然の力がたくさん眠っています。おおさきエネルギーカウンシルではその普及を通じて、豊かな田舎暮らしを皆さんと共に考え、楽しみながら地域に根差したエコライフを再発見し、さまざまなシーンから情報発信していくことで「おおさき」を未来の子どもたちが自慢できる場所にしていきたいと思っています。その活動の集大成のイベントが「アースデイみやぎ大崎」で、たくさんの地域の皆様にご参加頂くことができたこと、私たちの取り組みについての関心の高さや、今後の私たちの活動にも手応えを得ることができました。

今後の継続的な情報発信のためにも、会員募集とあわせて共に活動してくれる仲間も広く募集しています。最初の一步を踏み出したばかりの私たちです。引き続き地域の皆様のご支援の程よろしくお願いたします。



東北6県 宮城 EPOトピックス

NPO法人 おおさきエネルギーカウンシル

- 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭 1-10-24 住まい工房アイム内
- HP : <http://oec-jimukyoku.jimdo.com/>
- facebook : <https://www.facebook.com/oosaki.energy.council/>

「OSAKINI LOCALISM」
ぜひ、一緒にしましょう!

プログラム (活動実績)

- おおさきエコツーリズム
- おおさきエネキッズプログラム
- アースデイみやぎ大崎

鳥海山にブナの森の復元を夢に見て

人と自然の共生をめざして

独立峰 鳥海山は、かつて白神山地をしのぐ程の広大なブナの森に包まれていました。しかし戦後の拡大造林政策の煽りを受けて大方のブナの森は伐採されて、杉林に代えられてしまいました。高地の厳しい環境に大方の杉は育っていないし、荒れるに任せているのが現状です。ブナを主とする広葉樹の森が果たす役割の大きさを、初めて知ることになった我々は、これから100年かけても豊かなブナの森を復元させようと声をかけ合いながら、コツコツと「継続は力なり」を信じながら21年間歩んできました。地元象湯小学校、県立仁賀保高校、TDK株の参加を得て継続されています。今後とも地道に輪を広げながら植樹活動を継続していきたいです。



東北6県 秋田 EPOトピックス

鳥海山にブナを植える会

- 〒018-0133 秋田県にかほ市象湯町関字有耶無耶ノ関3 須田方
- TEL/FAX : 0184-43-3549
- Email : choukaisen.buna@gmail.com
- facebook : <https://www.facebook.com/choukaisen.buna>



アトツギとはこれからの時代を見据えた ポジティブな生存戦略

跡継ぎ、アトツギ — それは未来的な生き方



アトツギ編集室は、山形県出身・在住のメンバー4人が、地域の食、手仕事、生業や暮らしの聞き書きをベースに、本や展覧会、旅などをつくっている活動体です。

「アトツギ」とはすでにある関係性の中に身を委ねること。継承というプロセスの中には先立つ存在が教え、跡継ぎが学び取る関係があります。先達がいる。先達の師匠がいて、さらにその師匠と無限に続く関係性、人間関係、練り込まれた技術、蓄積された思考。アトツギとは、これらの抱えきれない集積を贈与されることです。そして、アトツギは抱えきれないものを整

理していくなかで、高度経済成長期に解体されてしまった自然や手間隙、他者との関係性を結び直し、もう一度その関係性のなかに自らを位置づけることです。

私たちは、アトツギがこれからの時代を見据えたポジティブな生存戦略、創造的なスタンドポイントであると考え、活動に共感する人たちも巻き込んだイベントを行っています。2013年から始めたフィールドワーク「森の晩餐」には県内外から参加者が集まり、月山山系や朝日連峰の森で、マタギに狩猟文化を学んだり、森の達人とキノコの採集と保存食づくりを行います。これからもそのような体験の場を作り、時代の中で否

東北6県 山形 EPOトピックス

アトツギ編集室

- 〒997-0123 鶴岡市羽黒町市野山猿田97
- TEL : 090-1767-7634
- Email : info.atotsugi@gmail.com
- HP : http://atotsugi.me/

定されてきたものを掘り下げ、そこできかんだものを現代の文脈に落とし込み、新たな価値を作っていきたいと考えています。



創立16年目。人と組織の【根っこ】を 育む自然学校です!!

体験活動やワークショップといった「参加型の場づくり」を通して、「人と人」、「人と自然」をつなぐ架け橋になる。それが私達の役割です。



私達は【風土に根ざした絆や教育】を支援するために、子ども～大人、家族を対象にした自然体験活動やキャンプを実践してきました。

東日本大震災の直後から被災(地震、津波、核事故)した子ども達の「元気な笑顔」を取り戻すための「暮らし」に焦点をあて、それを国内外のみんな

で支える活動「こめらの森・南会津」を開始。子ども達が「生活体験」で生きる【根っこ】を育み、外遊びの「感動体験」で心を弾ませる機会を創ってきました。妊婦、乳幼児、小中高&家族が対象の「保養キャンプ」(夏・冬・春休み+週末)や季節ごとのイベントを2011年7月から4年間で36回実施。福島県内外から延べ137家族、232人、1443泊/人以上が利用。年間50日を目標に現在も活動継続中!

各種団体(企業、公共施設、幼・保・学校、行政など)の【社会貢献事業】や【人材育成&企画サポート】もご相談下さい。環境教育の指導者育成や職場のコミュニケーションUP、チームビルディング研修。子ども、親子向けの「ワ

東北6県 福島 EPOトピックス

NPO法人 森の遊学舎

- TEL : 090-4014-1164
- Email : office@ugaku.com
- HP : 森の遊学舎 <http://ugaku.com>
こめらの森 <http://r.goope.jp/minamiaizu/>
- facebook : <http://www.facebook.com/ugaku>

クワク環境イベント。「防災キャンプ」や「危機管理セミナー」など。講演会やワークショップ、執筆、教育キット開発、ボランティア体験支援ほか可能。ご要望にあわせ150以上の多彩なメニューから、最適なものを提供いたします。



* EPO 東北オフィス利用案内

EPO東北のミーティングルームのご案内

- 環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。事務局までご相談ください。
- 開館日/月～金
- 利用時間/10:00～18:00
- 利用人数/12名まで

◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。お気軽にお立ち寄りください。チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。



* Web-Siteのご案内

◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの每日一覧

◆随時更新：お知らせ、活動報告、日記

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！
お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。

メールマガジン登録者募集中!!

発行：第2週と第4週の毎月2回

登録：無料

内 容：環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のウェブサイトよりご登録いただけます。

* EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECOリパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.cceakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

環境イベント告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひEPO東北事務局まで情報をお寄せください。ご提供いただいた催事情報はEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。

EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F

TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181

E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp>

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】

休 日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。